

和歌山大学『クロスカル教育機構研究紀要』執筆要領

1. 書式概要

(1) 原稿の長さは、原則として論文 30 ページ程度、その他 15 ページ程度を上限とする。

(2) MS-Word を使用して作成し、A4 用紙に横書きとする。使用言語は原則として英語または日本語とする。和文は「MS 明朝体」、英文は「Times New Roman または Times」、文字サイズは和・英文とも本文は 11 ポイント。段組みはせず、1 行に和文 40 字、英文等半角 80 字、1 頁 35 行とする。余白上下左右 25 mm 程度。和文の句読点は和文句読点、英文カンマ・ピリオドどちらでもよいとする（各分野の慣例に従う）。

(3) 表題、執筆者名、本文、(図・表)、注、参考(引用)文献、必要なら「付記」(学会発表加筆修正等)「謝辞」(助成金等)、の順に原稿を作成する。注は、本文の末尾にまとめ、脚注としない。図、表は本文中に挿入、または本文の後にまとめ、通し番号を付す。

2. 書式詳細

原則として APA (第 6 版) に準ずるが、詳細については、各分野の慣例に従うものとする。

(1) 冒頭ページ

1. タイトル：18 ポイント、ボールドでセンタリング。執筆言語を中心に和英/英和を併記する。

2. 執筆者氏名・所属：12 ポイント、ボールドでセンタリング。執筆言語を中心に和英/英和を併記する。共著で役割や担当章分担の場合、明記すること。必要であれば著者注 (Author Note) を付けても良い。

3. Abstract：氏名・所属の後に 1 行あけ、本文の執筆言語によらず英文で Abstract を 150~250words 程度で記す。先頭の字下げはしない。11 ポイント。

4. キーワード：Abstract の後に 1 行あけ、執筆言語を中心にキーワード/ Keywords または Keywords/ キーワードの順に 5 つ程度挙げる。11 ポイント。

5. 本文：キーワード/Keywords の後に 1 行あけ、本文を始める。

(2) 本文の章立て、字下げ等

1. 字下げ：和文 1 字、英文 5 ストローク

2. 章：1. 2. 3. …と通し番号をつけ、ボールド。センタリングはしない。章の前は 1 行空ける。

3. 節：2.1 2.2 2.2.1 3.1 3.2 4…のように通し番号をつけ、ボールド。センタリングはしない。節の前は 1 行空けない。

例：

1. はじめに

○○○○○○・・・

2. 先行研究

2.1 処理可能性理論

○○○○○○○・・・
○○○○○○○○

2.2 日本語学習者の学習傾向分析

2.2.1 大学日本語科のケース

○○○○○○○・・・

3. 研究方法

3.1 アンケート調査

○○○○○○○・・・
○○○○○○○○

3.2 分析方法

4. 結果と考察

5. まとめ

○○○○○○○・・・
○○○○○○○○

(3) 参考文献：基本的にAPA（第6版）に準ずる。

First author last name, First author first name initial. First author middle name initial. (#### year of publication). Title of the journal article. *Name of the Periodical*, ## volume number of periodical(#issue number of periodical – if available), ### page numbers of article. [http://doi.org/ #####](http://doi.org/#####) -if available
著者名（発行年）。「著者名または記事名」．『掲載誌名』巻. ページ.

例：

Eccles, J.S.& Wigfield, A. (2002). Motivational beliefs, values, and goals. *Annual Review of Psychology*, 53, 109-132.
木村友保、佐藤雄大、他（2013）．「日本のライティングセンター調査—日本人のための英語ライティングセンター構築の可能性」．『名古屋外国語大学現代国際学部紀要』9, 127-144.
Lee, A.Y.(2002). Effects of implicit memory on memory-based versus stimulus-based brand choice. *Journal of Marketing Research*, 39(4), 440-454. <http://doi.org/c4j8zv>
Plunkett, J. M. (2011). *Bipolar disorder: Causes, diagnosis and treatment*. Nova Science Publishers.
白井恭弘. (2012). 『英語教師のための第二言語習得入門』．東京：大修館書店.

制定 2020年（令和2年）10月1日